学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	日本・中国言語文化学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学<グローバル>スタンダード）をふまえ，人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し，常に知的好奇心を持ち続け，人間や社会，環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（☞KUGS1,5に対応）
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と，文献読解にとどまらない固有の方法を，系統立てて理解・習得し説明できるとともに，それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。（☞KUGS1,2,5に対応）
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報，文献，資料，史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集，分析，統合し，自らの見解や価値観を形成するとともに，明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（☞KUGS3に対応）
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って，異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており，日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（☞KUGS4に対応）

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

日本・中国言語文化学プログラムでは，人間の言語・文化・思想・歴史・芸術・社会・生活などについて考究する人文諸学の成果を学び，日本および中国に関する言語・文学・言語文化に関する諸問題の探究に必要な専門知識と解決力を有し，さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は，以上の人材養成目標に到達し，かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために，以下のような日本・中国言語文化学プログラムの学習成果を上げた者とする。

学類・プログラムのCP(カリキュラム編成方針)

【学類のCP】
DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために，以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて，KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して，学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず，必ず初習言語をひとつ以上選択することで，外国語コミュニケーション能力，異文化への関心と理解力を養う。（☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し，前者では大学・学問論，ジェンダー論，文化概説，文学概論，異文化理解，法政基礎論，地域創造学，金融リテラシー等，人文科学，社会科学の基本的問題や方法論を，後者では人文諸学の基本研究内容，研究手法，そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し，人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。（☞DP1,2）
3. 英語については，1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目，また，各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで，継続的に英語運用能力の向上を図る。（☞DP4）
4. 専門科目は，講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが，いずれのプログラムの講義・演習等でも，個人あるいはグループ単位での口頭発表，報告書（レポート）作成，討論，調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで，専門的知識の獲得に加えて，自己表現，他者理解，コミュニケーション等の能力を養っている。（☞DP3,4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は，共通教育と専門教育の集大成となるもので，1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら，学生自らが課題やテーマを設定し，データ・資料・史料等を収集，分析，読解し，自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では，自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。

【プログラムのCP】
1年次では，GS言語科目（英語）に加えて初習言語（中国語およびその他の言語）を学び，本プログラムでの学習の基盤となる語学力を身に付け，人文学序説の履修を開始し，人文学に関する基本的な理解を進める。2年次からは，履修モデルを参考に，プログラム指定の専門科目（講義・演習）を組み合わせて履修し，日本語学，日本文学，中国語学，中国文学に関する学習を進めていく。言語学と文学研究の一般的な方法論と基礎知識を着実に習得するとともに，個別の言語現象・文学作品・資料等を扱うことを通して，対象を的確に分析する力と言語表現に対する精緻な理解力を獲得する。他方，年次進行に合わせ外国語のコミュニケーション能力をより高めるとともに，プレゼンテーションと議論を通じて，他者と効果的に関わりながら結論を導く社会的な技量を身に付ける。4年次には，自らの力で研究課題を設定し，「卒業論文演習A・B・C・D」に沿って資料収集と分析を行う。その鍛錬を通じて，自己の問題解決力，自らの考えを的確に他者に伝える説明力をさらに向上させる。

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

科目番号	授業科目名	学習の目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。	外国事情に関心を持ち，外国語のコミュニケーション能力をもつ。	複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。	ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。	討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。	原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。
21420	日本語学概説1	・日本語を客観的にとらえるための基本的な考え方と方法論を身に付ける。 ・日本語の諸特徴に関する基礎的知識を獲得する。	2,3,4	*				◎		○	◎	○		
21421	日本語学概説2	・日本語を客観的にとらえるための基本的な考え方と方法論を身に付ける。 ・日本語の諸特徴に関する基礎的知識を獲得する。	2,3,4		*			◎		○	◎	○		
21422	日本の古典と古典学1	・日本古典文学の代表的な古典がどのように古典として認知されたかを知ることができる。 ・古典学の成果を踏まえて、新たな古典的作品がどのように創造されたかを知ることができる。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)	◎		○	◎	○	○	
21423	日本の古典と古典学2	・日本古典文学の代表的な古典がどのように古典として認知されたかを知ることができる。 ・古典学の成果を踏まえて、新たな古典的作品がどのように創造されたかを知ることができる。	2,3,4	(*)	*	(*)	(*)	◎		○	◎	○	○	
21424	中国語学概説A1	中国語スクールグラマーの知識を基礎とし、中国語を分析する基礎知識及び基礎技能を習得する。	2	*						◎	○			
21425	中国語学概説A2	中国語スクールグラマーの知識を基礎とし、中国語を分析する基礎知識及び基礎技能を習得する。	2		*					◎	○			
21426	漢文学概説1	中国古典の各ジャンルと古代文化の特質を理解する。	2			*		○		◎				
21427	漢文学概説2	中国古典の各ジャンルと古代文化の特質を理解する。	2				*	○		◎				
41973	日本語の歴史1	・日本語の歴史に関する諸問題について深く理解する。 ・文献学を含めた歴史言語学の基本的な考え方を理解する。	2,3,4			*	(*)	◎		○	◎	○		
41974	日本語の歴史2	・日本語の歴史に関する諸問題について深く理解する。 ・文献学を含めた歴史言語学の基本的な考え方を理解する。	2,3,4			(*)	*	◎		○	◎	○		
41976	日本語学講義2	・日本語の言語構造について、個別の問題の探求を通して、その特徴を詳細に理解する。 ・言語の現象についての理解を深める。	2,3,4	(*)	(*)	(*)	*	◎		○	◎	○		
42801	日本の近代文学1	近代文学作品の表現に注目し、「なにが」「どのように」書かれているか意識した読解ができる。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)	◎			◎	○	○	
42802	日本の近代文学2	近代文学作品の表現に注目し、「なにが」「どのように」書かれているか意識した読解ができる。	2,3,4	(*)	*	(*)	(*)	◎			◎	○	○	
42803	日本の現代文学1	現代文学作品の表現に注目し、「なにが」「どのように」書かれているか意識した読解ができる。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)	◎			◎	○	○	
42804	日本の現代文学2	現代文学作品の表現に注目し、「なにが」「どのように」書かれているか意識した読解ができる。	2,3,4	(*)	*	(*)	(*)	◎			◎	○	○	
42805	日本古典文学研究法	・日本古典文学についての研究・享受の歴史を踏まえた研究法を身につける。また、文学作品を「書いてあるとおりに読む」ための基本的な方法を獲得する。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)	◎		○	◎	○	○	
42806	日本近代文学研究法	・近代文学を解釈するための研究法に触れ、それらの知見を活用して自らの解釈を導き出せる。	2,3,4			*	(*)	◎		◎	○	○		
42807	日本現代文学研究法	・現代文学を解釈するための研究法に触れ、それらの知見を活用して自らの解釈を導き出せる。またその研究法それ自体についての知見を深める。	2,3,4	*				◎		◎	○	○		
42808	日本文芸思潮講義	・広く日本近現代文学の文芸思潮に触れ、見識を深める。	2,3,4			*	(*)	◎			◎		◎	
42809	日本比較古典文学講義	・日本の古典文学と諸国の文学との関連を意識し、その比較を通して古典文学に関する視野を広める。	2,3,4			*	(*)	◎		◎	○	○	○	
42810	日本比較近代文学講義	・日本の近代文学と諸国の文学との関連を意識し、その比較を通して近代文学に関する視野を広める。	2,3,4			*	(*)	◎		◎	○	○	○	
42811	日本比較現代文学講義	・日本の現代文学と諸国の文学との関連を意識し、その比較を通して現代文学に関する視野を広める。	2,3,4	*	(*)			◎		◎	○	○	○	
42812	日本語学演習A1	・個別のテーマ・文献を題材として，日本語の構造，あるいは日本語の歴史に関する理解を深める。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査，考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)	◎		○	◎	◎	○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	日本・中国言語文化学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学<グローバル>スタンダード）をふまえ，人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し，常に知的好奇心を持ち続け，人間や社会，環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（☞KUGS1,5に対応）
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と，文献読解にとどまらない固有の方法を，系統立てて理解・習得し説明できるとともに，それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。（☞KUGS1,2,5に対応）
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報，文献，資料，史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集，分析，統合し，自らの見解や価値観を形成するとともに，明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（☞KUGS3に対応）
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って，異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており，日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（☞KUGS4に対応）

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

日本・中国言語文化学プログラムでは，人間の言語・文化・思想・歴史・芸術・社会・生活などについて考究する人文諸学の成果を学び，日本および中国に関する言語・文学・言語文化に関する諸問題の探究に必要な専門知識と解決力を有し，さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は，以上の人材養成目標に到達し，かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために，以下のような日本・中国言語文化学プログラムの学習成果を上げた者とする。

学類・プログラムのCP(カリキュラム編成方針)

【学類のCP】
DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために，以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて，KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して，学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず，必ず初習言語をひとつ以上選択することで，外国語コミュニケーション能力，異文化への関心と理解力を養う。（☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し，前者では大学・学問論，ジェンダー論，文化概説，文学概論，異文化理解，法政基礎論，地域創造学，金融リテラシー等，人文科学，社会科学の基本的問題や方法論を，後者では人文諸学の基本研究内容，研究手法，そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し，人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。（☞DP1,2）
3. 英語については，1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目，また，各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで，継続的に英語運用能力の向上を図る。（☞DP4）
4. 専門科目は，講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが，いずれのプログラムの講義・演習等でも，個人あるいはグループ単位での口頭発表，報告書（レポート）作成，討論，調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで，専門的知識の獲得に加えて，自己表現，他者理解，コミュニケーション等の能力を養っている。（☞DP3,4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は，共通教育と専門教育の集大成となるもので，1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら，学生自らが課題やテーマを設定し，データ・資料・史料等を収集，分析，読解し，自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では，自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。

【プログラムのCP】
1年次では，GS言語科目（英語）に加えて初習言語（中国語およびその他の言語）を学び，本プログラムでの学習の基盤となる語学力を身に付け，人文学序説の履修を開始し，人文学に関する基本的な理解を進める。2年次からは，履修モデルを参考に，プログラム指定の専門科目（講義・演習）を組み合わせて履修し，日本語学，日本文学，中国語学，中国文学に関する学習を進めていく。言語学と文学研究の一般的な方法論と基礎知識を着実に習得するとともに，個別の言語現象・文学作品・資料等を扱うことを通して，対象を的確に分析する力と言語表現に対する精緻な理解力を獲得する。他方，年次進行に合わせ外国語のコミュニケーション能力をより高めるとともに，プレゼンテーションと議論を通じて，他者と効果的に関わりながら結論を導く社会的な技量を身に付ける。4年次には，自らの力で研究課題を設定し，「卒業論文演習A・B・C・D」に沿って資料収集と分析を行う。その鍛錬を通じて，自己の問題解決力，自らの考えを的確に他者に伝える説明力をさらに向上させる。

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。	外国事情に関心を持ち，外国語のコミュニケーション能力をもつ。	複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。	ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。	討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。	原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。

プログラムのカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習の目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。	外国事情に関心を持ち，外国語のコミュニケーション能力をもつ。	複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。	ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。	討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。	原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。
42813	日本語学演習A2	・個別のテーマ・文献を題材として，日本語の構造，あるいは日本語の歴史に関する理解を深める。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査，考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。	2,3,4	(*)	*	(*)	(*)	◎		○	◎	◎	○	
42814	日本語学演習B1	・個別のテーマ・文献を題材として，日本語の構造，あるいは日本語の歴史に関する理解を深める。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査，考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)	◎		○	◎	◎	○	
42815	日本語学演習B2	・個別のテーマ・文献を題材として，日本語の構造，あるいは日本語の歴史に関する理解を深める。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査，考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。	2,3,4	(*)	(*)	(*)	*	◎		○	◎	◎	○	
42816	日本語学演習C1	・個別のテーマ・文献を題材として，日本語の構造，あるいは日本語の歴史に関する理解を深める。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査，考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)	◎		○	◎	◎	○	
42817	日本語学演習C2	・個別のテーマ・文献を題材として，日本語の構造，あるいは日本語の歴史に関する理解を深める。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査，考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。	2,3,4	(*)	*	(*)	(*)	◎		○	◎	◎	○	
42818	日本古典文学演習A1	・古典文学作品を「書いてあるとおりに読む」ために必要な基本作業を実践し、自分の考えをまとめ発表する力をつける。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)	◎		○	◎	◎	◎	
42819	日本古典文学演習A2	・古典文学作品を「書いてあるとおりに読む」ために必要な基本作業を実践し、自分の考えをまとめ発表する力をつける。	2,3,4	(*)	(*)	(*)	*	◎		○	◎	◎	◎	
42820	日本古典文学演習B1	・古典文学作品を「書いてあるとおりに読む」ために必要な基本作業を実践し、自分の考えをまとめ発表する力をつける。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)	◎		○	◎	◎	◎	
42821	日本古典文学演習B2	・古典文学作品を「書いてあるとおりに読む」ために必要な基本作業を実践し、自分の考えをまとめ発表する力をつける。	2,3,4	(*)	(*)	(*)	*	◎		○	◎	◎	◎	
42822	日本古典文学演習C1	・古典文学作品を「書いてあるとおりに読む」ために必要な基本作業を実践し、自分の考えをまとめ発表する力をつける。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)	◎		○	◎	◎	◎	
42823	日本古典文学演習C2	・古典文学作品を「書いてあるとおりに読む」ために必要な基本作業を実践し、自分の考えをまとめ発表する力をつける。	2,3,4	(*)	*	(*)	(*)	◎		○	◎	◎	◎	
42824	日本近代文学演習A1	・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)	◎		○	◎	◎	○	
42825	日本近代文学演習A2	・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2,3,4	(*)	(*)	(*)	*	◎		○	◎	◎	○	
42826	日本近代文学演習B1	・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)	◎			◎	◎	○	
42827	日本近代文学演習B2	・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2,3,4	(*)	(*)	(*)	*	◎			◎	◎	○	
42828	日本近代文学演習C1	・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)	◎			◎	◎	○	
42829	日本近代文学演習C2	・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2,3,4	(*)	*	(*)	(*)	◎			◎	◎	○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	日本・中国言語文化学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学<グローバル>スタンダード）をふまえ，人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し，常に知的好奇心を持ち続け，人間や社会，環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（☞KUGS1,5に対応）
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と，文献読解にとどまらない固有の方法を，系統立てて理解・習得し説明できるとともに，それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。（☞KUGS1,2,5に対応）
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報，文献，資料，史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集，分析，統合し，自らの見解や価値観を形成するとともに，明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（☞KUGS3に対応）
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って，異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており，日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（☞KUGS4に対応）

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

日本・中国言語文化学プログラムでは，人間の言語・文化・思想・歴史・芸術・社会・生活などについて考究する人文諸学の成果を学び，日本および中国に関する言語・文学・言語文化に関する諸問題の探究に必要な専門知識と解決力を有し，さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は，以上の人材養成目標に到達し，かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために，以下のような日本・中国言語文化学プログラムの学習成果を上げた者とする。

学類・プログラムのCP(カリキュラム編成方針)

【学類のCP】
DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために，以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて，KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して，学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず，必ず初習言語をひとつ以上選択することで，外国語コミュニケーション能力，異文化への関心と理解力を養う。（☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し，前者では大学・学問論，ジェンダー論，文化概説，文学概論，異文化理解，法政基礎論，地域創造学，金融リテラシー等，人文科学，社会科学の基本的問題や方法論を，後者では人文諸学の基本研究内容，研究手法，そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し，人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。（☞DP1,2）
3. 英語については，1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目，また，各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで，継続的に英語運用能力の向上を図る。（☞DP4）
4. 専門科目は，講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが，いずれのプログラムの講義・演習等でも，個人あるいはグループ単位での口頭発表，報告書（レポート）作成，討論，調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで，専門的知識の獲得に加えて，自己表現，他者理解，コミュニケーション等の能力を養っている。（☞DP3,4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は，共通教育と専門教育の集大成となるもので，1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら，学生自らが課題やテーマを設定し，データ・資料・史料等を収集，分析，読解し，自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では，自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。

【プログラムのCP】
1年次では，GS言語科目（英語）に加えて初習言語（中国語およびその他の言語）を学び，本プログラムでの学習の基盤となる語学力を身に付け，人文学序説の履修を開始し，人文学に関する基本的な理解を進める。2年次からは，履修モデルを参考に，プログラム指定の専門科目（講義・演習）を組み合わせて履修し，日本語学，日本文学，中国語学，中国文学に関する学習を進めていく。言語学と文学研究の一般的な方法論と基礎知識を着実に習得するとともに，個別の言語現象・文学作品・資料等を扱うことを通して，対象を的確に分析する力と言語表現に対する精緻な理解力を獲得する。他方，年次進行に合わせ外国語のコミュニケーション能力をより高めるとともに，プレゼンテーションと議論を通じて，他者と効果的に関わりながら結論を導く社会的な技量を身に付ける。4年次には，自らの力で研究課題を設定し，「卒業論文演習A・B・C・D」に沿って資料収集と分析を行う。その鍛錬を通じて，自己の問題解決力，自らの考えを的確に他者に伝える説明力をさらに向上させる。

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。	外国事情に関心を持ち，外国語のコミュニケーション能力をもつ。	複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。	ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。	討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。	原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。

プログラムのカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習の目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。	外国事情に関心を持ち，外国語のコミュニケーション能力をもつ。	複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。	ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。	討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。	原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。
42830	日本現代文学演習A1	・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2,3,4	*				◎			◎	◎	○	
42831	日本現代文学演習A2	・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2,3,4		*			◎			◎	◎	○	
42832	日本現代文学演習B1	・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2,3,4			*		◎		○	◎	◎	○	
42833	日本現代文学演習B2	・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2,3,4				*	◎		○	◎	◎	○	
42834	日本現代文学演習C1	・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2,3,4	*				◎		○	◎	◎	○	
42835	日本現代文学演習C2	・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2,3,4	*				◎		○	◎	◎	○	
42836	日本古典文学史講義	・古典文学史の代表的作品を読解し、その周辺事象との関わりを知ることができる。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)	◎		○	◎	○	○	
42837	日本近代文学史講義	・近代の文学史に精通し、数多くの代表的作品に接して、よく理解することができる。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)	◎		○	◎	○	○	
42838	日本現代文学史講義	・現代の文学史に精通し、数多くの代表的作品に接して、よく理解することができる。	2,3,4			*		◎		○	◎	○	○	
42068	中国語学概説B1	中国語音声に関する知識を習得しながら、比較対照の観点から日本語や英語の音声との差異を考察し、音声分析の方法を学ぶ。	2	*						○	◎			
42069	中国語学概説B2	中国語音声に関する知識を習得しながら、比較対照の観点から日本語や英語の音声との差異を考察し、音声分析の方法を学ぶ。	2		*					○	◎			
42070	中国語学研究1	中国の伝統的学問分野である「小学」に関して基礎知識を身につけ、古典中国語を読むための素養の形成を目指す。	2			*		○			◎			
42071	中国語学研究2	中国の伝統的学問分野である「小学」に関して基礎知識を身につけ、古典中国語を読むための素養の形成を目指す。	2				*	○			◎			
42072	中国文学概説1	中国代文学の各ジャンルについて学び、原典講読を通じて作品分析の方法や理論を習得する。	2			*		○					◎	
42073	中国文学概説2	中国文学の各ジャンルについて学び、原典講読を通じて作品分析の方法や理論を習得する。	2				*	○					◎	
42074	中国文学史A1	中国古典白話文学に親しみ、作品の背景にある通俗文化について理解を深める。作品研究に必要な分析方法と理論を学ぶ。	2			*		◎					○	
42075	中国文学史A2	中国古典白話文学に親しみ、作品の背景にある通俗文化について理解を深める。作品研究に必要な分析方法と理論を学ぶ。	2				*	◎					○	
42076	中国文学史B1	中国近現代文学に親しみ、作品の背景にある歴史的文脈を理解する。作品研究に必要な分析方法と理論を学ぶ。	2			*		◎					○	
42077	中国文学史B2	中国近現代文学に親しみ、作品の背景にある歴史的文脈を理解する。作品研究に必要な分析方法と理論を学ぶ。	2				*	◎					○	
42078	中国文学研究1	原典の精読や映像鑑賞を通して専門のテーマに関する高度な中国語コミュニケーション能力を身につける。	2	*					◎				○	
42079	中国文学研究2	原典の精読や映像鑑賞を通して専門のテーマに関する高度な中国語コミュニケーション能力を身につける。	2		*				◎				○	
42080	漢文学史A1	中国古代・中世の文語体文学の歴史について学ぶ。中国古典の読解を通じ外国の文化、思想について理解を深める。	2	*				○		◎				
42081	漢文学史A2	中国古代・中世の文語体文学の歴史について学ぶ。中国古典の読解を通じ外国の文化、思想について理解を深める。	2		*			○		◎				
42082	漢文学史B1	中国古代・中世の文語体文学の歴史について学ぶ。中国古典の読解を通じ外国の文化、思想について理解を深める。	2	*				○		◎				

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	日本・中国言語文化学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学<グローバル>スタンダード）をふまえ，人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し，常に知的好奇心を持ち続け，人間や社会，環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（☞KUGS1,5に対応）
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と，文献読解にとどまらない固有の方法を，系統立てて理解・習得し説明できるとともに，それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。（☞KUGS1,2,5に対応）
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報，文献，資料，史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集，分析，統合し，自らの見解や価値観を形成するとともに，明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（☞KUGS3に対応）
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って，異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており，日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（☞KUGS4に対応）

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

日本･中国言語文化学プログラムでは，人間の言語・文化・思想・歴史・芸術・社会・生活などについて考究する人文諸学の成果を学び，日本および中国に関する言語・文学・言語文化に関する諸問題の探究に必要な専門知識と解決力を有し，さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は，以上の人材養成目標に到達し，かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために，以下のような日本・中国言語文化学プログラムの学習成果を上げた者とする。

学類・プログラムのCP(カリキュラム編成方針)

【学類のCP】
DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために，以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて，KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して，学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず，必ず初習言語をひとつ以上選択することで，外国語コミュニケーション能力，異文化への関心と理解力を養う。（☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し，前者では大学・学問論，ジェンダー論，文化概説，文学概論，異文化理解，法政基礎論，地域創造学，金融リテラシー等，人文科学，社会科学の基本的問題や方法論を，後者では人文諸学の基本研究内容，研究手法，そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し，人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。（☞DP1,2）
3. 英語については，1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目，また，各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで，継続的に英語運用能力の向上を図る。（☞DP4）
4. 専門科目は，講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが，いずれのプログラムの講義・演習等でも，個人あるいはグループ単位での口頭発表，報告書（レポート）作成，討論，調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで，専門的知識の獲得に加えて，自己表現，他者理解，コミュニケーション等の能力を養っている。（☞DP3,4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は，共通教育と専門教育の集大成となるもので，1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら，学生自らが課題やテーマを設定し，データ・資料・史料等を収集，分析，読解し，自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では，自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。

【プログラムのCP】
1年次では，GS言語科目（英語）に加えて初習言語（中国語およびその他の言語）を学び，本プログラムでの学習の基盤となる語学力を身に付け，人文学序説の履修を開始し，人文学に関する基本的な理解を進める。2年次からは，履修モデルを参考に，プログラム指定の専門科目（講義・演習）を組み合わせて履修し，日本語学，日本文学，中国語学，中国文学に関する学習を進めていく。言語学と文学研究の一般的な方法論と基礎知識を着実に習得するとともに，個別の言語現象・文学作品・資料等を扱うことを通して，対象を的確に分析する力と言語表現に対する精緻な理解力を獲得する。他方，年次進行に合わせ外国語のコミュニケーション能力をより高めるとともに，プレゼンテーションと議論を通じて，他者と効果的に関わりながら結論を導く社会的な技量を身に付ける。4年次には，自らの力で研究課題を設定し，「卒業論文演習A・B・C・D」に沿って資料収集と分析を行う。その鍛錬を通じて，自己の問題解決力，自らの考えを的確に他者に伝える説明力をさらに向上させる。

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

プログラムのカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習の目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。	外国事情に関心を持ち，外国語のコミュニケーション能力をもつ。	複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。	ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。	討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。	原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。
42083	漢文学史B2	中国古代・中世の文語体文学の歴史について学ぶ。中国古典の読解を通じ外国の文化、思想について理解を深める。	2		*			○		◎				
42040	中国の文化と社会C1	中国の文化・社会論および歴史について理解を深め、これらに関する中国語表現を学習する。	2	*					◎		○			
42041	中国の文化と社会C2	中国の文化・社会論および歴史について理解を深め、これらに関する中国語表現を学習する。	2		*				◎		○			
42066	中国の文化と社会E1	英語での講義により、中国の文化・社会論および歴史について理解を深め、これらに関する中国語表現を学習する。	2			*			◎		○			
42067	中国の文化と社会E2	英語での講義により、中国の文化・社会論および歴史について理解を深め、これらに関する中国語表現を学習する。	2				*		◎		○			
42084	中国語コミュニケーション初級1	中国語の基礎的文法事項をマスターし、中国語検定3級又はHSK4級合格相当の中国語運用能力を身につける。	2	*					◎					
42085	中国語コミュニケーション初級2	中国語の基礎的文法事項をマスターし、中国語検定3級又はHSK4級合格相当の中国語運用能力を身につける。	2		*				◎					
42086	中国語コミュニケーション初級3	ネイティブ教員による中国語作文と会話の練習を通じて、中国語検定3級又はHSK4級合格相当の中国語運用能力を身につける。	2	*					◎					
42087	中国語コミュニケーション初級4	ネイティブ教員による中国語作文と会話の練習を通じて、中国語検定3級又はHSK4級合格相当の中国語運用能力を身につける。	2		*				◎					
42088	中国語コミュニケーション初級5	中国語の文章読解と作文練習を通じて、中国語検定3級又はHSK4級合格相当の中国語運用能力を身につける。	2			*			◎					
42089	中国語コミュニケーション初級6	中国語の文章読解と作文練習を通じて、中国語検定3級又はHSK4級合格相当の中国語運用能力を身につける。	2				*		◎					
42090	中国語コミュニケーション初級7	ネイティブ教員による中国語作文と会話の練習を通じて、中国語検定3級又はHSK4級合格相当の中国語運用能力を身につける。	2			*			◎					
42091	中国語コミュニケーション初級8	ネイティブ教員による中国語作文と会話の練習を通じて、中国語検定3級又はHSK4級合格相当の中国語運用能力を身につける。	2				*		◎					
42050	中国語表現法A1	読解や作文を通じて中国語の語彙を増やし、基礎文型やイディオムを習得する。	3	*					◎					
42051	中国語表現法A2	読解や作文を通じて中国語の語彙を増やし、基礎文型やイディオムを習得する。	3		*				◎					
42052	中国語表現法B1	議論に必要な中国語表現を多く習得し、自分の問題意識を正確に伝える表現力を養う。	3			*			◎					
42053	中国語表現法B2	議論に必要な中国語表現を多く習得し、自分の問題意識を正確に伝える表現力を養う。	3				*		◎					
42054	現代中国時事文A1	多様な中国関係の報道の視聴、読解を通じて、中国語で中国の現代事情について正確に理解する。	3	*					○			◎		
42055	現代中国時事文A2	多様な中国関係の報道の視聴、読解を通じて、中国語で中国の現代事情について正確に理解する。	3		*				○			◎		
42056	現代中国時事文B1	現代中国時事文Aや中国語表現法Aで習得したことを踏まえ、自分の見解を確立し中国語で議論する力を身につける。	3			*			○			◎		
42057	現代中国時事文B2	現代中国時事文Aや中国語表現法Aで習得したことを踏まえ、自分の見解を確立し中国語で議論する力を身につける。	3				*		○			◎		
42058	中国語文献読解基礎A1	短篇の物語を講読し、正確な発音と中国語の文章を中国語で説明できる表現力、読解力を身につける。	2	*					○				◎	
42059	中国語文献読解基礎A2	短篇の物語を講読し、正確な発音と中国語の文章を中国語で説明できる表現力、読解力を身につける。	2		*				○				◎	
42060	中国語文献読解基礎B1	現代文学の作品の講読を通じて、正確な発音と読解力の向上を目指す。	2	*					○				◎	
42061	中国語文献読解基礎B2	現代文学の作品の講読を通じて、正確な発音と読解力の向上を目指す。	2		*				○				◎	
42092	中国語学演習A1	中国語表現に関する研究論文の講読やコーパス調査の実践により、実証的研究のための基礎力を養う。	3			*					◎		○	
42093	中国語学演習A2	中国語表現に関する研究論文の講読やコーパス調査の実践により、実証的研究のための基礎力を養う。	3				*				◎		○	
42094	中国語学演習B1	中国語基礎語彙の歴史について、文献からのアプローチによる再構成の方法を修得する。	3			*				◎	○			

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	日本・中国言語文化学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学<グローバル>スタンダード）をふまえ，人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し，常に知的好奇心を持ち続け，人間や社会，環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(☞KUGS1,5に対応)
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と，文献読解にとどまらない固有の方法を，系統立てて理解・習得し説明できるとともに，それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(☞KUGS1,2,5に対応)
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報，文献，資料，史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集，分析，統合し，自らの見解や価値観を形成するとともに，明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(☞KUGS3に対応)
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って，異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており，日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(☞KUGS4に対応)

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

日本・中国言語文化学プログラムでは，人間の言語・文化・思想・歴史・芸術・社会・生活などについて考究する人文諸学の成果を学び，日本および中国に関する言語・文学・言語文化に関する諸問題の探究に必要な専門知識と解決力を有し，さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は，以上の人材養成目標に到達し，かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために，以下のような日本・中国言語文化学プログラムの学習成果を上げた者とする。

学類・プログラムのCP(カリキュラム編成方針）

【学類のCP】
DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために，以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて， KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して，学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず，必ず初習言語をひとつ以上選択することで，外国語コミュニケーション能力，異文化への関心と理解力を養う。(☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し，前者では大学・学問論，ジェンダー論，文化概説，文学概論，異文化理解，法政基礎論，地域創造学，金融リテラシー等，人文科学，社会科学の基本的問題や方法論を，後者では人文諸学の基本研究内容，研究手法，そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し，人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。(☞DP1,2）
3. 英語については，1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目，また，各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで，継続的に英語運用能力の向上を図る。(☞DP4）
4. 専門科目は，講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが，いずれのプログラムの講義・演習等でも，個人あるいはグループ単位での口頭発表，報告書（レポート）作成，討論，調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで，専門的知識の獲得に加えて，自己表現，他者理解，コミュニケーション等の能力を養っている。(☞DP3,4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は，共通教育と専門教育の集大成となるもので，1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら，学生自らが課題やテーマを設定し，データ・資料・史料等を収集，分析，読解し，自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では，自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。

【プログラムのCP】
1年次では，GS言語科目（英語）に加えて初習言語（中国語およびその他の言語）を学び，本プログラムでの学習の基盤となる語学力を身に付け，人文学序説の履修を開始し，人文学に関する基本的な理解を進める。2年次からは，履修モデルを参考に，プログラム指定の専門科目（講義・演習）を組み合わせて履修し，日本語学，日本文学，中国語学，中国文学に関する学習を進めていく。言語学と文学研究の一般的な方法論と基礎知識を着実に習得するとともに，個別の言語現象・文学作品・資料等を扱うことを通して，対象を的確に分析する力と言語表現に対する精緻な理解力を獲得する。他方，年次進行に合わせ外国語のコミュニケーション能力をより高めるとともに，プレゼンテーションと議論を通じて，他者と効果的に関わりながら結論を導く社会的な技量を身に付ける。4年次には，自らの力で研究課題を設定し，「卒業論文演習A・B・C・D」に沿って資料収集と分析を行う。その鍛錬を通じて，自己の問題解決力，自らの考えを的確に他者に伝える説明力をさらに向上させる。

プログラムのカリキュラム

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。	外国事情に関心を持ち，外国語のコミュニケーション能力をもつ。	複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。	ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。	討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。	原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。
42095	中国語学演習B2	中国語基礎語彙の歴史について、文献からのアプローチによる再構成の方法を修得する。	3				＊			◎	○			
42062	中国語学テーマ別演習A	対照研究に必要な概念用語と定義を理解し、レポート作成に活用できるようにする。卒論でとりあげる具体的言語資料に応じた理論構成ができるようにする。	3			＊				◎			○	
42063	中国語学テーマ別演習B	方言地理学の一連の作業と考察を通じて、複雑な事象から問題を発見し、解決していく能力を身につける。卒論につながる実践的研究の手がかりとする。	3				＊			○	◎			
42096	中国文学演習A1	中国小説の読解力を養い、小説を分析する方法論や理論を習得する。	3	＊							◎		○	
42097	中国文学演習A2	中国小説の読解力を養い、小説を分析する方法論や理論を習得する。	3		＊						◎		○	
42098	中国文学演習B1	現代中国事情を理解し、近現代文学の作品を読み解く能力を習得する。	3			＊			○				◎	
42099	中国文学演習B2	現代中国事情を理解し、近現代文学の作品を読み解く能力を習得する。	3				＊		○				◎	
42064	中国文学テーマ別演習A	中国古典詩文の原典講読を通じて文言文の読解力を向上させる。先行研究の成果を把握し、作品研究の方法を学ぶ。	3			＊		◎					○	
42065	中国文学テーマ別演習B	中国古典詩文の原典講読を通じて文言文の読解力を向上させる。先行研究の成果を把握し、作品研究の方法を学ぶ。	3				＊	○					◎	
31005	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・学術論文の形式を理解する。	4	＊				◎		○	◎	◎		
31006	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定の仕方、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。	4		＊			◎		○	◎	◎		
31007	卒業論文演習C	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・具体的な研究課題と研究計画を設定し、これを遂行するために調査・資料収集・文献読解を行い、関連する技法、考え方を身につける。	4			＊		◎		○	◎	◎		
31008	卒業論文演習D	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・調査・資料収集・文献読解を通じて得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4				＊	◎		○	◎	◎		
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4		＊		＊	◎			◎	◎	◎	
11057	人文学序説A	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・ラボラトリ（実験）、サーベイ（調査と分析）という方法の基礎的な知識を理解する。	1	＊		(＊)		◎						○
11058	人文学序説B	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・フィールドワーク（野外実習・調査）という方法の基礎的な知識を理解する。	1		＊	(＊)		◎						○
11059	人文学序説C	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト（文献）の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	(＊)		＊		○		○				○
11060	人文学序説D	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・言語や文学に関するテキスト（文献）の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1		(＊)	＊		○		○				○
11063	現代社会・人間学入門	・グローバル化のプロセスがもつ意味を理解する。 ・グローバル化の影響を理解する。 ・人文社会科学の諸分野の学問的方法や固有の領域について理解する。	1〜4		＊			◎						○
11064	哲学の始源	・西洋哲学・倫理学の起源を歴史的に学び、その特質を理解する。	1〜4				(＊)							○
11065	社会情報学A	・人間行動や社会集団の変化を、社会情報という視点によって把握する方法を学ぶ。 ・具体的な社会変動のプロセスやメカニズムを分析的に理解する。	1〜4	＊				○						○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	日本・中国言語文化学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学<グローバル>スタンダード）をふまえ，人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し，常に知的好奇心を持ち続け，人間や社会，環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（☞KUGS1,5に対応）
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と，文献読解にとどまらない固有の方法を，系統立てて理解・習得し説明できるとともに，それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。（☞KUGS1,2,5に対応）
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報，文献，資料，史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集，分析，統合し，自らの見解や価値観を形成するとともに，明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（☞KUGS3に対応）
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って，異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており，日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（☞KUGS4に対応）

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

日本・中国言語文化学プログラムでは，人間の言語・文化・思想・歴史・芸術・社会・生活などについて考究する人文諸学の成果を学び，日本および中国に関する言語・文学・言語文化に関する諸問題の探究に必要な専門知識と解決力を有し，さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は，以上の人材養成目標に到達し，かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために，以下のような日本・中国言語文化学プログラムの学習成果を上げた者とする。

学類・プログラムのCP(カリキュラム編成方針)

【学類のCP】
DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために，以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて，KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して，学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず，必ず初習言語をひとつ以上選択することで，外国語コミュニケーション能力，異文化への関心と理解力を養う。（☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し，前者では大学・学問論，ジェンダー論，文化概説，文学概論，異文化理解，法政基礎論，地域創造学，金融リテラシー等，人文科学，社会科学の基本的問題や方法論を，後者では人文諸学の基本研究内容，研究手法，そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し，人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。（☞DP1,2）
3. 英語については，1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目，また，各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで，継続的に英語運用能力の向上を図る。（☞DP4）
4. 専門科目は，講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが，いずれのプログラムの講義・演習等でも，個人あるいはグループ単位での口頭発表，報告書（レポート）作成，討論，調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで，専門的知識の獲得に加えて，自己表現，他者理解，コミュニケーション等の能力を養っている。（☞DP3,4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は，共通教育と専門教育の集大成となるもので，1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら，学生自らが課題やテーマを設定し，データ・資料・史料等を収集，分析，読解し，自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では，自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。

【プログラムのCP】
1年次では，GS言語科目（英語）に加えて初習言語（中国語およびその他の言語）を学び，本プログラムでの学習の基盤となる語学力を身に付け，人文学序説の履修を開始し，人文学に関する基本的な理解を進める。2年次からは，履修モデルを参考に，プログラム指定の専門科目（講義・演習）を組み合わせて履修し，日本語学，日本文学，中国語学，中国文学に関する学習を進めていく。言語学と文学研究の一般的な方法論と基礎知識を着実に習得するとともに，個別の言語現象・文学作品・資料等を扱うことを通して，対象を的確に分析する力と言語表現に対する精緻な理解力を獲得する。他方，年次進行に合わせ外国語のコミュニケーション能力をより高めるとともに，プレゼンテーションと議論を通じて，他者と効果的に関わりながら結論を導く社会的な技量を身に付ける。4年次には，自らの力で研究課題を設定し，「卒業論文演習A・B・C・D」に沿って資料収集と分析を行う。その鍛錬を通じて，自己の問題解決力，自らの考えを的確に他者に伝える説明力をさらに向上させる。

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。	外国事情に関心を持ち，外国語のコミュニケーション能力をもつ。	複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。	ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。	討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。	原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。

プログラムのカリキュラム

番号	科目名	学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。	外国事情に関心を持ち，外国語のコミュニケーション能力をもつ。	複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。	ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。	討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。	原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。
11066	社会情報学B	・人間行動や社会集団の変化を、社会情報という視点によって把握する方法を理解する ・具体的な社会変動のプロセスやメカニズムを多元的に考察できるようになる。	1～4		*			○						○
11067	ジェンダーと社会A	・現代社会におけるジェンダー概念の意義と関連する諸課題について学ぶ。 ・ジェンダーの視点から諸課題の構造や課題解決のアプローチについて考察できるようになる。	1～4			*		○						○
11068	ジェンダーと社会B	・多様な性と関連する諸課題について学ぶ。 ・ダイバーシティとインクルージョン(社会的包摂)の視点から分析・課題解決の方法について理解する。	1～4				*	○						○
42621	知覚・認知心理学A	感覚知覚に関する諸現象や基礎知識を学び，その仕組みと心理過程における役割を理解する.	2-4					○						○
42622	知覚・認知心理学B	認知に関する諸現象や基礎知識を学び，認知過程と心理過程の特性を理解す	2-4					○						○
42623	学習・言語心理学A	学習心理学の基本的な現象，研究法，および説明理論について基礎知識を習得し，現実場面に応用できるようになる。	2-4					◎						○
42624	学習・言語心理学B	学習心理学の複雑な現象と説明理論について理解するとともに，言語心理学の基本的な現象，研究法，および言語障害について基礎知識を習得する。	2-4					◎						○
42625	感情・人格心理学A	人格心理学に関する理論や実証的な研究が理解できるようになる。	2-4					○						○
42626	感情・人格心理学B	感情心理学に関する理論や実証的な研究が理解できるようになる。	2-4					○						○
41475	古代文明論	世界各地の古代文明の成立・発展・衰退の過程について、考古資料、建築資料、図像資料、文字資料などを駆使して研究する方法を学ぶ	2年		*			◎						○
11069	北陸の考古学	北陸地方の主要な史跡について学び、考古学的に北陸地方の歴史を復元できるようになる。	2年		*			◎						○
11070	宗教芸術論	おもに、キリスト教・仏教の芸術について、それぞれの基本的な知識と、両者の差異、それを生み出す文化的・社会的背景に関する知識を修得する。	2年		*			◎						○
11071	イメージを読み解く	人類がこれまでに生み出したさまざまなイメージを手がかりに、人間の持つ普遍性や、地域や時代に応じた固有の文化のあり方を修得する	2年	*				◎						○
11072	グローバルヒストリー	一国史の枠を越えた、グローバルな視点で歴史を考察する力を養う。	2	*				○				○	○	○
11078	歴史学と現在1	戦後日本（敗戦直後から高度経済成長期まで）の史学史を学ぶことを通じて、歴史学の存在意義を理解する	1					◎			○	○		○
11079	歴史学と現在2	戦後日本（高度経済成長期以降）の史学史を学ぶことを通じて、歴史学の存在意義を理解する。	1					◎			○	○		○
41975	日本語学講義1	・日本語の言語構造について、個別の問題の探求を通して、その基本的特徴を理解する。 ・言語の現象についての基本的な理解を身に付ける。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)	◎		○	◎	○		○
11073	日本の物語と語り物	・日本文学史を貫流する問題や同時代の広がりの中でジャンルを横断して看取される共通点を取り上げて追跡・追求することができ	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)	◎		○	◎	○	○	○
11074	日本文学の近代	・近代文学と社会の関係に注意を巡らし、論理的読解ができる。言葉の細部にまで注意を巡らし、注釈的読解ができる。日本近代の問題について知見を深めることができる。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)	◎			◎	○	○	○
11075	日本文学とメディア	・現代文学と社会の関係に注意を巡らし、論理的読解ができる。言葉の細部にまで注意を巡らし、注釈的読解ができる。社会の問題について知見を深めることができる。	2,3,4			*		◎			◎	○	○	○
11076	中国の言語文化A	中国の言語と文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。	2			*		◎		◎	○			○
11077	中国の言語文化B	中国の言語と文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。	2				*	◎		◎	○			○
21401	言語研究入門	語学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2～4	*				◎						○
21402	文学研究入門	文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2～4		*			◎						○
21416	比較文学入門	比較文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2～4			*		○						○
21417	言語認知科学入門	・認知科学における言語の位置付けを理解する。 ・認知科学を学ぶ上で基礎となる心理学の知識を学ぶ。	2～4			*		○						○

※ (*)は年度によって開講時期が異なることを示します。